

[事例発表内容]

小テーマ	発 表 者	内 容
事例発表① 「地域住民との協働」	大田区立龍子記念館 木村拓也副館長	「地域住民との協働による事業の充実化」 当館では、展示や教育普及のイベント等において地域連携に努めてきたが、事業が増加、拡大するに依り人手不足が課題となってきた。そこで、平成 29 年から、地域住民との協働を目的とした「事業協力員（有償ボランティア）」制度を導入した。具体的には、地域の NPO や文化・観光団体を通じて募集をかけ、育成講座を経て美術館で地域住民が活躍できる仕組みを整備し、施設案内や英語対応、鑑賞補助などにおいて熱意ある人材をできるようになった。また、対話型鑑賞においても、協力員を活用し、学校団体や高齢者への対応などを充実させている。
事例発表② 「観光に関する取り組み」	鎌倉市鏑木清方記念美術館 今西彩子学芸員 北鎌倉葉祥明美術館 堀内重見館長	「観光地 鎌倉におけるミュージアムめぐりの取り組み」 鎌倉は中世以降に創建された寺社群や歴史的建造物が点在し、豊かな文化遺産を抱えた国内有数の観光地として知られている。そして市内には寺社が運営する施設も含めて 10 以上のミュージアムがある。2010 年以降に旧市街の雪ノ下地区で 5 館の連携事業が始まり、2010 年代後半には観光客にミュージアムめぐりを推奨し、所藏品と共に地域文化を紹介するウェブサイトが立ち上がるなど、ミュージアム同士の連携と活動を強化してきた。本報告を通じて美術館が主体となる地域連携の今後の可能性について議論を深めたい。
事例発表③ 「作家顕彰と美術館」	神田日勝記念美術館 杉本圭吾学芸員	「個人美術館における作家顕彰の取り組み—神田日勝記念美術館の二つの事例」 神田日勝記念美術館は、画家・神田日勝の画業顕彰のために建てられた公立の個人美術館であり、開館 32 年を経過した現在も顕彰と作家研究を続ける。近年の展覧会として、生前の神田日勝も出品した約 60 年前のグループ展の再現を試み、当時の地域画壇の様相を提示した。また、現役の現代美術作家の作品と、日勝の作品を対峙させ、双方の作品解釈を拓く展覧会も開催している。 これらの試みを通じて、没後 55 年を経過したこれからの時代、個人美術館が一人の画家について、そして作家周辺の地域美術について、どう顕彰していくかについて考える。
事例発表④ 「他分野との連携」	西日本自然史系博物館ネットワーク 大阪市立自然史博物館 佐久間大輔学芸課長 市立伊丹ミュージアム 奥山清市館長	「自然史系博物館との連携」 STEAM とは Science, Technology, Engineering, Mathematics に Arts を加えた造語で、理系/文系、科学/芸術といった枠にはまらない自由で柔軟な感性を培い、総合的で創造的な課題解決法を学ぶ教育手法として近年注目されている。西日本自然史系博物館ネットワークでは STEAM 教育に注目し、文化庁 Innovate MUSEUM 事業の一環としてその実践をテーマとする研究会を開催した。その事例報告をふまえつつ、STEAM という視点から見た美術館/自然史系博物館の組織的・人的連携のメリットと今後の可能性について皆様と一緒に議論する機会としたい。